

# 第2回通常総会

## 議案書

日時：2005年6月25日 15:00～16:00

場所：クレアージュ熊本

### 議 題

- I．平成16年度事業報告（案）
- II．平成16年度収支決算報告（案）
- III．平成17年度事業計画（案）
- IV．平成17年度収支予算（案）
- V．その他

NPO法人 九州バイオマスフォーラム

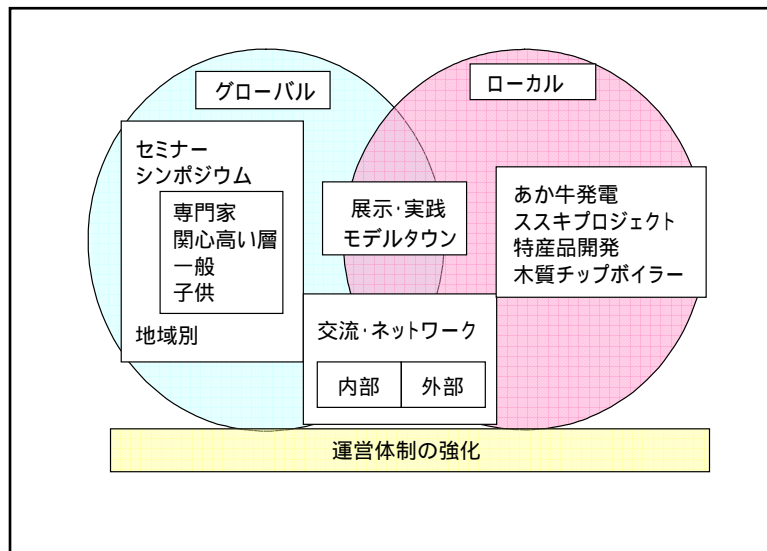
## I. 平成 16 年度事業報告（案）

### （1）これまでの経緯

平成 15 年に NPO 法人が設立された後、初年度は広報啓発事業を中心に活動を進めました。そして今後の活動方針や方法について考えるため、平成 16 年 1 月に理事会でブレインストーミングを実施致しました。その結果、「ローカルな活動（地域密着型事業）と、グローバルな活動（広域情報発信型事業）」にそれぞれ取り組んでいくことで合意しました。それを受け、活動 2 年目の平成 16 年度は目に見える活動（地域密着型事業）にも取り組めるよう、国の補助事業に申請しました。

### （2）平成 16 年度のまとめ

平成 16 年度は農水省のバイオマスフロンティア推進事業と経産省の環境コミュニティビジネスモデル事業に採択され、さっそく地域密着型事業に取り組むことができました。バイオマスフロンティア推進事業では生ゴミを資源としてとらえ、環境コミュニティビジネスモデル事業では阿蘇の草原を資源としてとらえ、それぞれ利用の実現に向けた調査や実験に取り組みました。これらの事業によって、実際に地域でバイオマスを利用するための下準備が大きく前進し、活動 3 年目の平成 17 年度には、実験的にでも一部利用が実現できる見通しが立つようになりました。また、設立当初から力を入れてきた広報啓発事業も順調に活動を続け、NPO 法人九州バイオマスフォーラムに対する周囲からの期待がさらに高まるようになりました。



### (3) 平成 16 年度事業概況報告

#### 阿蘇地域の草原や畜産糞尿を生かした草本系バイオマス利用推進事業

経済産業省の環境コミュニティビジネスモデル事業に採択されたことで、大きな活動予算を得ることができ、調査やシンポジウムなどの活動を充実させることができつつあります。これらの活動から、自治体や専門家、地元の牧野組合などにひろがりが出てきました。今後は、草資源流通センターの具体的な構想の策定と、収益性を明確にしていく必要があり、一方で NPO として今後どのように事業に取り組んでいくかという課題が出てきました。

#### 生ゴミを有効活用し RDF 施設の RPF 化を目指す阿蘇町の食品リサイクルプラン作成事業

食品廃棄物の発生量調査、現在生ごみ堆肥のアンケート調査、メタン発酵試験に取り組みました。成果として、阿蘇町で発生する事業系生ごみのメタン発酵にかかる費用を 1 万円に設定すると、理論的には年間約 3000 万円ものゴミ処理費用を削減できることがわかりました。また、阿蘇市の住民全戸(1万5000戸)に生ゴミのメタン発酵によるリサイクルプランを提案したパンフレットを配布する予定です。

#### バイオマスについての認知度を高める広報啓発事業

の事業に関連して、廃食油のディーゼル燃料化(BDF 化)のデモンストレーションを行ったところ、マスコミなどの反響が大きく、少しずつ広がりが出てきました。このデモンストレーションの成果として、㈱環境が 12 月に BDF プラントを導入し、1 月に阿蘇町と一の宮町で廃食油の回収を開始しました。現在、4 台のごみ収集車で BDF の利用しているようです。

九州バイオマスフォーラムは、この㈱環境が生産した BDF を利用して、お花見のライトアップに利用したり、トラクターの燃料として利用するなどのレクリエーション企画を実施しました。

また、年度末に南阿蘇鉄道を BDF で走行試験する企画が農水省から提案され、各関係機関に呼びかけましたが、準備不足で延期となりました。しかし、鉄道の BDF による走行試験は、一般市民のバイオマスや BDF に対する大きな関心を呼びイベントとなりそうですので、南阿蘇村役場と勉強会を開催して連携しながら、走行試験へ向けての課題解決の方策を検討しているところです。

### (4) 役員の辞任について

九州バイオマスフォーラムは、設立から 2 年が過ぎ、活動実績を積み重ねていく中で、ようやく目的や方向性が具体性をもってきました。それに伴って、理事の中で意見の相違が出てきました。

それらの意見の相違がある中で、理事の中で NPO 法人の役員として不適切な言動がありました。このため理事会として、不適切な言動のあった理事 1 名に辞任勧告を決議しました。この議論の中で理事 2 名から辞任届が提出され、勧告決議の後受理されました。

(4) 活動の日程

(ア) 理事会開催日

平成 16 年

7 月 15 日 第 1 回 理事会

平成 17 年

1 月 8 日 第 2 回理事会

2 月 24 日 第 3 回理事会

4 月 1 日 第 4 回理事会

6 月 4 日 第 5 回理事会

(イ) 運営委員会

平成 16 年

9 月 27 日 第 1 回運営委員会

11 月 10 日 第 2 回運営委員会

12 月 28 日 第 3 回運営委員会

平成 17 年

4 月 28 日 第 4 回運営委員会

5 月 19 日 第 5 回運営委員会

(ウ) 草資源流通センター専門委員会

平成 16 年

8 月 20 日 環境コミュニティビジネス 第 1 回専門委員会

9 月 13 日 環境コミュニティビジネス 第 2 回専門委員会

9 月 27 日 環境コミュニティビジネス 第 3 回専門委員会

10 月 12 日 環境コミュニティビジネス 第 4 回専門委員会

10 月 24 日 環境コミュニティビジネス 第 5 回専門委員会

11 月 10 日 環境コミュニティビジネス 第 6 回専門委員会

11 月 22 日 環境コミュニティビジネス 第 7 回専門委員会

12 月 15 日 環境コミュニティビジネス 第 8 回専門委員会

平成 17 年

1 月 8 日 環境コミュニティビジネス 第 9 回専門委員会

1 月 24 日 環境コミュニティビジネス 第 10 回専門委員会

2 月 14 日 環境コミュニティビジネス 第 11 回専門委員会

2 月 25 日 環境コミュニティビジネス 第 12 回専門委員会

3 月 2 日 環境コミュニティビジネス 第 13 回専門委員会

(エ) 阿蘇町食品廃棄物リサイクルシステム検討委員会・評価委員会

平成 16 年

7 月 17 日 阿蘇町食品リサイクルシステム検討委員会

8 月 16 日 阿蘇町食品リサイクルシステム検討委員会

平成 17 年

2月17日 阿蘇町食品リサイクルシステム検討委員会・評価委員会

3月25日 阿蘇町食品リサイクルシステム検討委員会・評価委員会

(オ)その他の活動日程

平成16年

6月27日 第1回通常総会

7月2日 [東京]環境コミュニティビジネスモデル事業 事業説明会出席

8月7日 長陽村バイオマスシンポジウム 共催

8月14日 白水村両併小学校夏祭り BDFデモンストレーション

8月19-20日 阿蘇町火の山祭り BDFデモンストレーション

8月21日 白水村で環境コミュニティビジネス座談会

8月22日 清水峠の牧野で現地検討会

8月29日 九重高原イベント BDF実演雨天中止(一部協力)

9月4日 (株)環境でBDFデモンストレーション

10月6日 清水峠で採草実験・経産省地方会議

10月10日 手づくりバイオガスプラント検討会

10月23-24日 熊本市環境フェア BDFデモンストレーション

10月28日 [福岡]九州地域バイオマス関係機関連絡会議 出席

10月26-29日 [福岡]エコテクノ2004 パネル展示・セミナーで講演

11月11-12日 [岡山]草原サミット・イベントでパネル展示

12月9-10日 [東京]エコプロダクツ2004 環境コミュニティビジネス中間発表

12月14日 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議と交流セミナー共催

12月17日 草資源流通センター検討会

12月18日 九州東海大学農学部 草資源利活用シンポジウム 「草をお金にかえるには？」

平成17年

2月8日 [長崎]バイオマス農林3号視察

2月17日 阿蘇広域行政組合未来館 「生ゴミがエネルギーに変わる？」バイオマスセミナー

3月5日 [東京]リバーサイドホール 環境コミュニティビジネス成果発表会

5月13日 南阿蘇村役場でバイオマス勉強会

5月18日 草資源流通センター懇談会

5月20日 熊本ファミリー銀行ふるさと環境応援定期助成金贈呈式

6月16日 [福岡]九州地域エネルギー・温暖化対策推進会議 出席

## (5) 事業実施項目表

## 特定非営利活動に係る事業

	定款の 事業名		事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	支出額 (千円)
地域モデル推 進事業	地域モデル推 進事業	計画	阿蘇の草原保全を目的 とした草本系バイオマ ス利用についての検討 会を開催する。	平成 16 年 7 月	公民館等	5 人	20 人	60
		実績	草資源流通センター構 想の座談会を白水村で 開催。(新聞記事参照。)	平成 16 年 8 月 21 日	白水村	5 人	45 人	419
		実績	草資源流通センター構 想について専門家を招 いて検討会開催。	平成 16 年 12 月 17 日	ゆたっと村	3 人	15 人	206
		実績	「草をお金にかえるに は？」草資源流通セン ター構想のシンポジウ ムを開催。阿蘇グリー ンストック・九州東海 大学と共催。	平成 16 年 12 月 18 日	九州東海大 学農学部	5 人	150 人	227
	地域モデル推 進事業	計画	阿蘇の草原に豊富に存 在する草本系バイオマ スの利用可能性調査を 行う。	平成 16 年 4 月～7 月	阿蘇郡	4 人		300
		実績	牧野組合・農家へのア ンケート調査、文献調 査を実施。	平成 16 年 4~6 月	阿蘇郡	2 人		113
		実績	環境コミュニティビジ ネスモデル事業の一環 として実施。	平成 16 年 10 月～平成 17 年 2 月	阿蘇郡	4 人		1,050
地域モデル推 進事業	地域モデル推 進事業	計画	阿蘇町における食品廃 棄物のリサイクルプラ ンを作成する。	平成 16 年 5 月～平成 17 年 2 月	阿蘇町	5 人		2,230
		実績	阿蘇町の食品廃棄物発 生量調査を行い、阿蘇 町の生ゴミからメタン 発酵試験を行った。そ の結果を元にリサイク ルプランを作成し、阿 蘇市全戸にパンフレッ トを作成・配布した。	平成 16 年 5 月～平成 17 年 3 月	阿蘇町	5 人		2,250
	広報啓発事業	計画	食用廃油を回収し、そ の BDF を用いて発電 実験を行う。その電氣 を夏祭りなどのイベン トで利用してもらう。	平成 16 年 8 月	阿蘇郡 又は 熊本市内	3 人	50 人	30
実績		夏祭りやイベント等で BDF を用いて発電を行 った。(新聞記事参照)	8 月～11 月	白水村 阿蘇町 熊本市	5 人	-	66	

広報啓発事業	計画	食品廃棄物リサイクルやメタン発酵の専門家を招いて講演会を開催する。	平成 16 年 8 月	阿蘇町 未来館	3 人	100 人	20
	実績	長陽村公民館で、日本廃棄物学会、日本生物工学会と共催でセミナーを開催した。	平成 16 年 8 月 7 日	長陽村 公民館	3 人	50 人	40
	実績	NPO 法人伊万里はちがめプランの福田氏を招いて講演会を開催した。	平成 16 年 10 月 9 日	阿蘇町 未来館	2 人	15 人	25
地域モデル推進事業	計画	阿蘇町の食品廃棄物の調査結果に基づき、食品廃棄物リサイクルについての検討会・講習会を開催する。	平成 16 年 9 月	阿蘇町 未来館	3 人	40 人	20
	実績	メタン発酵の展示実験や、ドイツのバイオエネルギー村についての事例紹介を行った。	平成 17 年 2 月 17 日	阿蘇町 未来館	3 人	60 人	-
広報啓発事業	計画	専門家や識者などを招いてバイオマスに関する講演会やパネルディスカッションなどを行うシンポジウムを開催する。	平成 16 年 秋～冬	パレア・公 民館等	3 人	100 人	30
	実績	近畿バイオインダストリー振興会議とセミナーを共催。	平成 16 年 12 月 14 日	パレア	2 人	50 人	-
広報啓発事業	計画	ペレットストーブなどのバイオマス関連製品の展示会を開催する。	平成 16 年 11 月	セミナー・ シンポジウ ム会場等	2 人	会員および 一般参加者 に対し	20
	実績	開催せず	-	-	-	-	-
広報啓発事業	計画	なし	-	-	-	-	-
	実績	エコテクノ 2004 に出展し、環境コミュニティビジネスの事業についてパネル展示と講演を行った。	平成 16 年 10 月 27-29 日	北九州市 西日本総合 展示場	1 人	-	23

その他の事業（収益事業）

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	支出額 (千円)
バイオマス関連 製品の販売事業	セミナーやシンポジウムの会場で、バイオマスに関する書籍や資料・バイオマスの関連製品等を展示・販売する。	随時	セミナー 会場等	2 人	80
	書籍の販売については実施できなかった。	-	-	-	-
	野草の販売を試験的に行った。	平成 17 年 3 月～	阿蘇地域	1	140

## II. 平成 16 年度収支決算報告（案）

### （１）財産目録および貸借対照表

熊本ファミリー銀行から 500 万円の借入れを行いました。三菱総研から、環境コミュニティビジネスの補助金の概算払いがあったため 100 万円を返済したため、3 月 31 日現在は 400 万円の残高になっています。また、平成 16 年 6 月 1 日に、400 万円の借入金を全額返済しております。

未収金は、112 万円が農水省バイオマスフロンティア推進事業の補助金です。残りは、収益事業（草）の売掛金と、一部会費の未納分を計上しています。

未払い金は、給与手当と決算処理に伴うチェックの段階で明らかになった未処理伝票を計上していません。預かり金は、謝金などで支払った報酬の源泉徴収分です。

### 平成16年度会計貸借対照表

平成17年3月31日現在

#### 特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラム

資産の部		負債の部	
科目	金額(単位:円)	科目	金額(単位:円)
1 流動資産		1 流動負債	
(現金・預金)		未払金	313,394
現金	123,285	短期借入金	4,000,000
郵便貯金	3,800	預り金	18,200
郵便振替口座	4,960	未払法人税	65,700
肥後銀行普通預金	5,405	流動負債 合計	4,397,294
熊本ファ普通預金	2,704,577	2 固定負債	
現金・預金 計	2,842,027	なし	0
(未収金)		固定負債 合計	0
未収金	1,255,000	負債合計	4,397,294
流動資産合計	4,097,027	正味財産の部	
2 固定資産		前期繰越財産	-185,804
なし	0	当期正味財産	-300,267
固定資産合計	0	増加額(減少額)	-114,463
		正味財産合計	-300,267
		負債及び正味財産	
資産合計	4,097,027	合計	4,097,027

### （２）特定非営利活動に係る会計収支計算書

昨年度から実施した日本グランドワーク協会からの調査委託費を今年度に繰り入れたことと、環境コミュニティビジネスや農水省バイオマスフロンティア推進事業の補助金等で、事業予算が大きく伸びました。しかし、想定されていた補助金・助成金の額が減ったことや、他の助成金が思うようにとれなかったことで、経費削減に努力しましたが、結果的に赤字になってしまいました。

平成 16 年度の事業について熊本ファミリー銀行の助成金が採択されましたが、平成 17 年 4 月以降に採択の通知が来たために、平成 16 年度の決算には繰り入れませんでした。



平成16年度特定非営利活動に係る会計収支決算書  
平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラム

	計画	実績	差額
経常収入の部			
1 会費収入	604,000	580,000	24,000
個人正会員 12,000円	240,000	240,000	-
個人賛助会員 3000円	144,000	60,000	84,000
団体正会員 24,000円	120,000	240,000	-120,000
団体賛助会員 20,000円	100,000	40,000	60,000
2 寄付金収入	200,000	95,865	104,135
3 事業収入	5,507,000	5,497,255	9,745
広報啓発事業	200,000	197,220	2,780
地域モデル推進事業	5,287,000	5,294,035	-7,035
交流及び製品普及事業	20,000	6,000	14,000
4 その他の事業会計からの繰り入れ	20,000	82,470	-62,470
5 補助金等収入	1,845,000	1,427,000	418,000
6 雑収入	20,000	8,017	11,983
経常収入合計 (A)	8,196,000	7,690,607	505,393

経常支出の部			
1 事業費	6,562,000	6,247,467	314,533
広報啓発事業費	300,000	73,827	226,173
地域モデル事業費	6,262,000	6,161,880	100,120
交流及び製品普及事業	-	11,760	-11,760
2 管理費	1,351,400	1,557,604	-206,204
役員報酬	-	-	-
給料手当	960,000	960,000	-
福利厚生費	-	-	-
旅費交通費	24,000	30,020	-6,020
通信運搬費	62,400	115,417	-53,017
印刷製本費	24,000	2,200	21,800
消耗品費	12,000	47,840	-35,840
計器備品費	18,000	25,683	-7,683
図書資料費	-	3,909	-3,909
光熱水費	-	-	-
賃借料	120,000	120,000	-
保険料	-	20,370	-20,370
会議費	24,000	61,337	-37,337
雑費	12,000	7,829	4,171
租税公課	75,000	71,700	3,300
支払利息	-	91,299	-91,299
予備費	20,000	-	20,000
経常支出合計 (B)	7,913,400	7,805,071	108,329
収支差額 (A)-(B)	282,600	-114,464	397,064
前期繰越財産(C)	-185,804	-185,804	
次期繰越収支差額 (A)-(B)+(C)	96,796	-300,268	

当初予算では、環境コミュニティビジネスモデル事業の委託契約金（378.7万円）が含まれていなかったため、補正後の予算総額が記載されています。（当初予算 150万円）

(3) その他の事業に係る会計収支計算書

当初は、書籍やバイオプラスチックなどのサンプルを、セミナー会場などで販売する予定でしたが、セミナーやシンポジウムの準備で手が回らず、書籍等の販売は実施できませんでした。しかし、環境コミュニティビジネスの採草実験で刈り取った草を試験販売したところ、予約分を含めてすべて完売することができました。また、経費の大部分は調査費用(環境コミュニティビジネス)で捻出しているため、みかけ上、利益率が高くなっていますが、実際の経費を勘案した場合は、大幅な赤字になります。

平成16年度その他の事業(収益事業)に係る会計収支決算書  
平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

	実績
収入の部	
1. 売上高 草資源売上高	210,642
<b>収入合計</b>	<b>210,642</b>

支出の部	
1. 売上原価 草資源仕入高	60,000
2. 販売費	
渉外費	7,320
燃料費	2,880
会議費	1,258
福利厚生費	16,539
臨時雇用費	30,175
リース料	-
通信運搬費	10,000
<b>支出合計</b>	<b>128,172</b>
<b>収支差額</b>	<b>82,470</b>

## ・平成 17 年度事業計画（案）

### （ 1 ） 平成 16 年度の総括

平成 16 年度の事業報告については、議案 で報告しましたが、事業の評価と課題を以下の二つの文章で簡単にまとめました。

周囲の人々・団体の支援を受けながら事業の実施を行うことができました。

周囲の期待にこたえられるだけの体制ができていない。

#### < 明らかになった課題 >

会員向けのサービスが不十分であった。

役員の役割分担があいまいだった。

実施体制の未整備（会計・事務作業）

#### < 以上の課題をふまえた平成 17 年度の活動方針 >

事業の実施については、これまでの方針を継続。

NPO のありかたや運営方針についての勉強会を開催。

企業と NPO の連携のあり方

役員や会員の役割分担

NPO の経営

中・長期的ビジョン

会員に会報を発行すると同時に、会員のニーズの掘り起こしに努める。

### （ 2 ） 平成 17 年度の実業計画

#### ローカル事業（地域密着型事業）

ア) 草資源流通センター設立事業

イ) BDF 普及促進事業

ウ) 地元自治体との連携

#### グローバル事業（広域情報発信型事業）

ア) バイオマスソリューション企画運営協力

イ) 東アジアにおけるバイオマス利用の現状（農業施設学会主催）への協力

ウ) NPO の活動を発信（HP、会報、講演など）

エ) 他団体との広域連携（菜の花プロジェクトネットワーク、日本有機資源協会）

#### 内部体制の充実

ア) 事務局体制の整備

イ) 役割分担の明確化

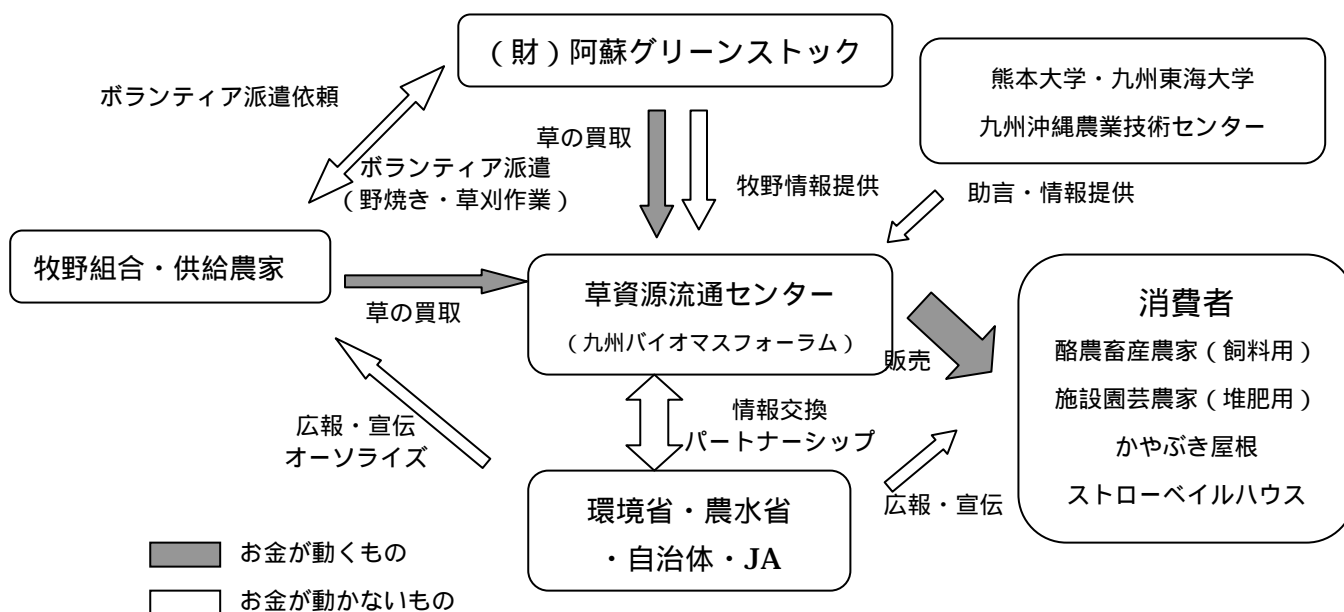
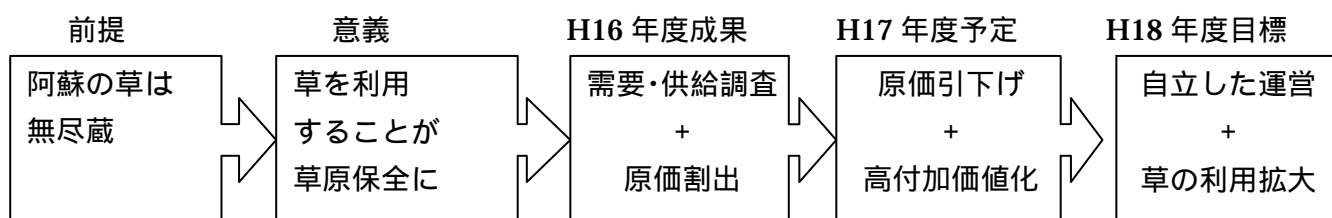
### (3) 草資源流通センター設立事業

KBF としては地域密着型の実践事業として、昨年度に引き続き進めていきます。事業予算は、経済産業省の環境コミュニティビジネスモデル事業に 400 万円の事業申請を行い、採択決定通知が来ましたが、2 年目ということもあって、交付額が減らされる可能性もあります。

実施方針として、今年度は牧野組合や JA など、地元の自治体や組織等と連携をとりながら、着実に進めて生きたいと考えております。

今後の進め方や具体的予算の使い方については、昨年度の専門委員会を引き継いで、専門委員会で事業を実施していく予定です。また、傾斜地での効率的な草の収穫技術の開発のために、刈草の R D F 化技術を持っている(株)栗本鐵工所や、ラジコン草刈機の技術を持っている(株)クボタと連携して実験を行う予定です。

参考資料として、環境コミュニティビジネスモデル事業の報告書資料をご参照ください。



(4) 九州バイオマスソリューション

平成 17 年 2 月ごろに日刊工業新聞社から、平成 17 年 9 月 7~9 日の日程で九州バイオマスソリューションというイベントを企画しているの、企画・運営等で協力して欲しいとの依頼がありました。

その後、九州バイオマスソリューションの内容について企画運営を進めていく実行委員会が組織され、当 NPO 法人の理事でもある熊本大学の木田教授が委員長に就任されました。その大会実行委員で下記のような案が出されました。九州バイオマスフォーラムとしては、下記の案に添うような形で進めたいと思います。下記の表の中で、KBF として主体的にかかわれる部分に関しては、講師の旅費の負担などを行いたいと考えています。

予算については、NEDO の草の根活動支援の補助金 (1 / 2 補助) を利用する予定です。この補助金は、昨年度から大幅に適用範囲が緩和され、新エネルギーや省エネルギーの広報啓発事業に係る経費であれば、ほとんど摘要されることになりました。また、最大限度額も 2000 万円に引き上げられ、補助金の総額もかなり大きく拡大されたそうです。そのため、申請すればかなりの確立で採択されると聞いています。

しかし、適用を受ける条件として以下のような項目があります。

主催事業であること。

共催などで参加する場合は、イベントの中のひとつの催し物を主体的になって (つまり主催者として) 実施する事業に関して、補助を受けることができる。その場合は、主体となっていることがわかるように申請書に書く必要がある。

恩恵を受ける人が、できる限り広い範囲が望ましい。たとえば、バイオマスとは何かをしらない一般の人にもわかりやすく伝えるようなイベントが望ましい。

上記の点を踏まえて、大会実行委員会と連携をとりながら進めていきたいと考えております。また、セミナーについては、ビデオなどで記録し、許可をいただいたものに関しては、教材として販売していきたいと考えております。

九州・バイオマスソリューション

企画主催：九州・バイオマスソリューション実行委員会、九州バイオマス連絡会議、

NPO 法人九州バイオマスフォーラム

	9月7日		9月8日		9月9日	
午前	ミセミナ-室	ミセミナ-室	ミセミナ-室	ミセミナ-室	ミセミナ-室	ミセミナ-室
	酒井先生	九州産廃 or 南国興産	栗田工業	園元先生	寺岡先生	川崎重工
午後	研修室		研修室	ミセミナ-室	ミセミナ-室	ミセミナ-室
	基調講演と討論会 NEDO 廃棄物・バイオマス 九経局資源課 <sup>1</sup> - ユンデI課 <sup>2</sup> -村		バイオマス タウンサミット	西尾先生	KBF	杉本先生
				日本ガイシ	大木町	小川先生
				日揮	はちかめ	白井先生
藤田先生						

(5) 特定非営利活動に係る事業計画表

ローカル事業(地域密着型事業)

グローバル事業(広域情報発信事業)

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象 者の範囲 及び人数	支出額 (千円)
地域モデル 推進事業	<b>草資源流通センター設立事業</b> (環境コミュニティビジネスモデル事業) 阿蘇の草原に豊富に存在する草本系バイオマスのカスケード利用を進めるための仕組みづくりを行う。 ・ ストローベイルハウスワークショップ ・ 傾斜地採草機械化実験 ・ 需要調査等	年間を通じて	阿蘇郡	5人	不特定多数	3300
	<b>液肥散布試験</b> 平成16年度に作成した阿蘇地区食品廃棄物リサイクルプランを具体化するため、メタン発酵の消化液を水稻の追肥として散布試験を行い、性能評価を行う。	平成17年8月	阿蘇市湯浦地区	3人		50
広報啓発事業	<b>BDF普及事業</b> 夏祭りやイベントなどでの電力を、BDFを使って発電し、バイオマスについての関心を高める。	随時	熊本県内	3人	不特定多数	
	<b>草資源の活用推進</b> 草資源の利活用を進めるための懇談会の開催やパンフレット・ホームページの作成を行う。 (環境コミュニティビジネスモデル事業の一環として実施。)	年間を通じて	阿蘇郡	3人	不特定多数	
	<b>自治体へのバイオマスレクチャー</b> 役場や市役所のバイオマス関連の担当者に、バイオマスタウン申請のためのレクチャーや、バイオマスを利用したまちづくり支援を行う。	随時	阿蘇郡	2人		
広報啓発事業	<b>九州バイオマスソリューション</b> 日刊工業新聞社主催のバイオマスを扱ったイベントの企画・運営に協力する。	平成17年9月7~9日	福岡国際センター	4人	不特定多数	2,280
	<b>バイオマスタウンサミット</b> 九州農政局や九州バイオマス関係機関連絡会議と連携して、バイオマスタウンの現状や課題について討論の場を設け、今後のバイオマス普及に向けて考える。 (九州バイオマスソリューションの一環として実施)	平成17年9月8日	福岡国際センター	4人	不特定多数	
	<b>バイオマス国際シンポジウム</b> 日本農業施設学会主催のシンポジウムで企画されている現地見学会等の運営を行う。	平成17年10月31日~11月1日	熊本市国際交流会館	3人	50人	60
広報啓発事業 交流事業	<b>バイオマスセミナー・交流会</b> 会員や自治体等からの要望に応じて、講師派遣のセミナーや情報交換のための交流会を開催する。	随時	未定	5人	不特定多数	

( 6 ) その他の事業 ( 収益事業 ) に係る事業計画表

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	支出額 ( 千円 )
バイオマス関連 製品の販売事業	セミナーやシンポジウムの会場で、バイオマスに関する書籍や資料・バイオマスの関連製品等を展示・販売する。	随時	セミナー 会場等	2 人	160
	阿蘇の草資源を収集・運搬・加工し、インターネット等を活用して、試験販売を行う。	随時	阿蘇地域	2 人	2,200

## 平成17年度事業予算(案)

### (1) 特定非営利活動に係る会計収支予算書

NPO法人は、会費収入+寄付金：事業収入：政府補助金の割合が1：1：1になることが望ましいとされています。現在のKBFの現状は大部分が政府補助金であるため、安定的に活動を続けていくためには、会費収入と事業収入を今後拡大していく必要があります。

今年度は広報啓発事業として企画運営に参加している九州バイオマスソリューションの場で広くKBFの活動をアピールし、会員拡大に努める予定です。

平成17年度特定非営利活動に係る会計収支予算書  
平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

#### 特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラム

	平成16年度	平成17年度	差額
経常収入の部			
1 会費収入	580,000	890,000	310,000
個人正会員 12,000円	240,000	360,000	120,000
個人賛助会員 3000円	60,000	90,000	30,000
団体正会員 24,000円	240,000	360,000	120,000
団体賛助会員 20,000円	40,000	80,000	40,000
2 寄付金収入	95,865	200,000	104,135
3 事業収入	5,497,255	6,070,000	572,745
広報啓発事業	197,220	1,750,000	1,552,780
地域モデル推進事業	5,294,035	4,300,000	-994,035
交流及び製品普及事業	6,000	20,000	14,000
4 その他の事業会計からの繰り入れ	82,470	500,000	417,530
5 補助金等収入	1,427,000	1,740,000	313,000
6 雑収入	8,017	10,000	1,983
経常収入合計(A)	7,690,607	9,410,000	1,719,393

経常支出の部			
1. 事業費	6,247,467	6,545,000	-297,533
広報啓発事業費	73,827	2,880,000	-2,806,173
地域モデル事業費	6,161,880	3,650,000	2,511,880
交流及び製品普及事業	11,760	15,000	-3,240
2 管理費	1,557,604	2,564,000	-1,006,396
役員報酬	-	-	-
給料手当	960,000	1,800,000	-840,000
福利厚生費	-	12,000	-12,000
旅費交通費	30,020	100,000	-69,980
通信運搬費	115,417	120,000	-4,583
印刷製本費	2,200	10,000	-7,800
消耗品費	47,840	50,000	-2,160
計器備品費	25,683	25,000	683
図書資料費	3,909	5,000	-1,091
光熱水費	-	-	-
賃借料	120,000	120,000	-
保険料	20,370	30,000	-9,630
会議費	61,337	60,000	1,337
雑費	7,829	10,000	-2,171
租税公課	71,700	72,000	-300
支払利息	91,299	100,000	-8,701
予備費	-	50,000	-50,000
経常支出合計(B)	7,805,071	9,109,000	-1,303,929
収支差額(A)-(B)	-114,464	301,000	
前期繰越財産(C)	-185,804	-300,268	
次期繰越収支差額(A)-(B)+(C)	-300,268	732	

費目	内訳	単価	小計
広報啓発事業	農業施設学会 負担金	300,000	1,750,000
	受託事業	1,400,000	
	セミナー参加費等	50,000	
地域モデル	環境コミュニティビジネスモデル事業	3,700,000	4,300,000
	環境省	600,000	
補助金等	NEDO 非営利活動促進事業	1,390,000	1,740,000
	熊本ファミリー銀行	350,000	

費目	内訳	単価	小計
広報啓発事業	農業施設学会主催 国際シンポジウム	600,000	2,880,000
	九州バイオマスソリューション	2,280,000	
地域モデル事業	環境コミュニティビジネスモデル事業	3,300,000	3,650,000
	環境省 採草機械化実験	300,000	
	メタン発酵消化液散布実験	50,000	



(2) その他の事業(収益事業)に係る収支予算書

KBFでは、平成16年度の経済産業省環境コミュニティビジネスモデル事業の採択を受けて、本格的に草資源流通センターの設立事業に取組を開始しました。将来的には、KBFの収益の柱になるように、草の流通・販売に力を入れていく予定です。

下記の予算書は、草を年間100トン販売した場合に想定される経費と売上を計上しています。草の仕入れについては、南阿蘇で草原保全に取り組んでいる他のNPOの協力や、草原保全で実績のある(財)阿蘇グリーンストックの協力を得て、調達を考えております。草の販売については、環境省の草原再生シール生産者の会やJAと連携して、キロ25円の単価で販売を考えております。

平成17年度その他の事業(収益事業)に係る会計収支予算書  
平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラム

	平成16年度	平成17年度	増減
収入の部			
1. 売上高			
書籍等販売売上	-	200,000	200,000
草資源販売売上	210,642	2,500,000	2,289,358
<b>収入合計</b>	<b>210,642</b>	<b>2,700,000</b>	<b>2,489,358</b>

支出の部			
1. 売上原価			
書籍仕入高	-	160,000	160,000
草資源仕入高	60,000	750,000	690,000
2. 販売・管理費			
渉外費	7,320	20,000	12,680
燃料費	2,880	20,000	17,120
会議費	1,258	5,000	3,742
福利厚生費	16,539	35,000	18,461
臨時雇用費	30,175	700,000	669,825
リース料	-	250,000	250,000
通信運搬費	10,000	20,000	10,000
保険料	-	30,000	30,000
借地料	-	50,000	50,000
消耗品費	-	50,000	50,000
什器備品費	-	10,000	10,000
予備費	-	100,000	100,000
<b>支出合計</b>	<b>128,172</b>	<b>2,200,000</b>	<b>2,071,828</b>
<b>収支差額</b>	<b>82,470</b>	<b>500,000</b>	<b>417,530</b>

## ・その他

### (1) 町村合併に伴う定款の表記の変更について

阿蘇町が平成 17 年 2 月の町村合併により、阿蘇市に名称が変わりました。それに伴って、事務所の所在地の住所が阿蘇郡阿蘇町から阿蘇市に変わりました。そこで、定款第 2 条に記載されている事務所の所在地（住所）の表記を改める必要が出てきました。

また、事務所の所在地の表記の仕方において、(財)阿蘇グリーンストック内という表現が、(財)阿蘇グリーンストックと K B F が同一団体であるという誤解を受けるといふ指摘が従来からありました。

そこで、事務所の所在地の表現を次のように表現を改めたいと思いますので、ご承認をお願いします。

**(現在) 第 2 条 この法人は、主たる事務所を熊本県阿蘇郡阿蘇町赤水大堀 695-10 財団法人阿蘇グリーンストック事務局内に置く。**

**(修正案) 第 2 条 この法人は、主たる事務所を熊本県阿蘇市赤水字大堀 695-10 に置く。**

### (2) 九州バイオマスソリューションについて（報告事項）

九州バイオマスフォーラムの個人または団体会員の中で、ブース出展（通常料金約 24 万円）を検討されている方は、K B F から出展費用の助成（約 4~8 万円）がありますので、ぜひご利用ください。

九州バイオマスソリューションの開催期間中（9 月 7~9 日）のうち、12 時~13 時のセミナーの時間帯が空白となっております。そちらで講演を希望される方は、ぜひ K B F までお申し込みください。また、講演をお申し込みいただいた団体・企業様で、ブース出展される方は、さらに K B F から助成（最大 14 万円）があります。ブース出展を検討されている方は、ぜひ講演の方もお申し込みください。

N P O 法人や、研究機関、国や自治体の方の出展は、特別にブース出展料が免除される可能性があります。詳しくは K B F にお問い合わせください。

### (3) 会報の発行について（報告事項）

すでに会員の皆様のお手元には、会報の創刊準備号が届いているかと思いますが、今後は定期的に会報を発行する予定です。

編集委員は、K B F の役員以外に九州電技開発(株)の永利智子さんに、ボランティアでご協力いただいております。今後の紙面の充実のために、編集委員としてご協力いただける方は、お申し出ください。

また、掲載して欲しい記事の内容や広告依頼がありましたら、K B F の事務局または編集委員までお知らせください。

(参考資料1)

九州バイオマスソリューション開催案内



主催 日刊工業新聞社

展示会名 第5回 エネルギー・環境ビジネス総合展 2005

会期 2005年9月7日(水)~9日(金) 3日間

開場時間 10:00~17:00 最終日は16:00まで

会場 福岡国際センター (福岡市博多区築港本町2-2)

(参考資料2)

九州バイオマスソリューション・スケジュール案 (平成17年6月現在)

九州・バイオマスソリューション

企画主催:九州・バイオマスソリューション実行委員会、NPO法人九州バイオマスフォーラム

特別セミナースケジュール

		11:00~11:45	12:00~12:45	13:00~13:45	14:00~14:45	15:00~15:45	16:00~16:45
9月7日	セミナー-B 80名			13:00~? ? - ? ? - ? ? - ?			
			九州バイオマスサミット パート 基調講演 テーマ: ? 内容: 講師: NEDO三浦氏		テーマ: ? 内容: 講師: 九州経済産業局村上氏	テーマ: ? 内容: 講師: マリアン教授 通訳: NPO法人九州バイオマスフォーラム理事長 吉田愛梨氏	パネルディスカッション テーマ: ? 内容: パネリスト: ? コーディネーター: ?
	セミナー-F 28名	11:00~11:45 テーマ 廃棄物バイオマスの持続可能なマテリアルリサイクルの提議 内容 講師 大分大学工学部 助教授 酒井謙二 氏	12:00~12:45 テーマ 内容 講師	13:00~13:45 テーマ 内容 講師	14:00~14:45 テーマ 講師	15:00~15:45 テーマ 内容 講師	16:00~16:45 テーマ 内容 講師
セミナー-G 28名	11:00~11:45 テーマ ? 内容 講師 九州産廃 ○○○○ 氏	12:00~12:45 テーマ 内容 講師	13:00~13:45 テーマ 内容 講師	14:00~14:45 テーマ 講師	15:00~15:45 テーマ 内容 講師	16:00~16:45 テーマ 内容 講師	
9月8日	セミナー-B 80名			13:00~? ? - ? ? - ?			
			九州バイオマスサミット パート 基調講演 テーマ: ? 内容: 講師: 農水省? / 北九州市? 企画主催 九州農政局、九州バイオマス連絡会議、日本有機資源協会、NPO法人九州バイオマスフォーラム		パネルディスカッション テーマ: ? パネリスト: 福岡県大木町、熊本県南阿蘇村、長崎県西海町、大分県日田市、鹿児島県南大隈町 コメンテーター: マリアン教授 司会進行: NPO法人九州バイオマスフォーラム 理事長 吉田愛梨氏		
	セミナー-F 28名	11:00~11:45 テーマ ? 内容 講師 栗田工業 ○○○○ 氏	12:00~12:45 テーマ 内容 講師	13:00~13:45 テーマ 内容 講師	14:00~14:45 テーマ 内容 講師	15:00~15:45 テーマ 内容 講師	16:00~16:45 テーマ 内容 講師
セミナー-G 28名	11:00~11:45 テーマ ? 内容 講師 九州大学大学院農学研究院 教授 園元謙二 氏	12:00~12:45 テーマ 内容 講師	13:00~13:45 テーマ 完全嫌気発酵による有機排水・廃棄物の浄化・減量化及びエネルギー回収(水素・メタン) 内容 講師 広島大学大学院先端物質科学研究科 教授 西尾尚道 氏	14:00~14:45 テーマ ? 内容 講師 日本ガシシ(株)コックリング事業本部開発部ブランド開発G 坪井博和 氏	15:00~15:45 テーマ ? 内容 講師 日揮(株) 長田靖久 氏	16:00~16:45 テーマ ? 内容 講師 鹿児島大学 名誉教授 藤田晋輔 氏	
9月9日	セミナー-F 28名	11:00~11:45 テーマ 風しよバイオマスの有効利用について-奄美群島を事例として 内容 講師 鹿児島大学農学部生物環境学科 助教授 寺岡行雄 氏	12:00~12:45 テーマ 内容 講師	13:00~13:45 テーマ ? 内容 講師 九州バイオマスフォーラム 理事長 吉田愛梨 氏	14:00~14:45 テーマ 大木町がめざす循環のまちづくり - 生ごみ尿をエネルギーと液肥に - 内容 講師 福岡県大木町環境課施設推進係 係長 境 公雄 氏	15:00~15:45 テーマ '生ごみを宝に！' 持続可能な社会を目指して 内容 講師 NPO法人伊万里はちがめプラン 理事長 福田俊明 氏	
	セミナー-G 28名	11:00~11:45 テーマ 木質バイオマスの小規模分散型発電技術の最新動向 内容 講師 川崎重工業(株)営業推進本部バイオマスグループ 平田信史 氏	12:00~12:45 テーマ 内容 講師	13:00~13:45 テーマ ? 内容 講師 九州工業大学大学院生命体工学研究科 白井義人 氏	14:00~14:45 テーマ 微生物で化学素材のエチレンを造る 内容 講師 崇城大学生物生命学部 教授 小川隆平 氏	15:00~15:45 テーマ ? 内容 講師 九州沖縄農業研究センター作物機能開発部長 杉本 明氏	

(参考資料3)

2005 年度農業施設学会国際シンポジウム  
「東アジアにおけるバイオマス利用の現状と方向」の開催案内

開催趣旨：

平成 14 年 12 月「バイオマスニッポン総合戦略」が閣議決定され、その積極的な推進が求められている。九州ではバイオマス資源の一つである家畜排せつ物が大量に存在しているが、偏在化や輸送性の悪さ等から、新たな有効利用技術の開発が急務となっている。また、焼酎の蒸留残さやサツマイモでんぷん粕、食品残さの飼料化や資材化なども緊急の課題となっている。この様な背景や九州沖縄における気候・地理条件の中、様々な地域バイオマスのエネルギー化・有効利用化技術が研究されている。また、中国などのアジアには多くのバイオマス資源が存在し、有効利用に関する研究が行われている。バイオマスの利活用では、経済性を含めた総合的な運営が必要であり、関係者にとって最新情報を得るとともに技術の動向を見極めることが重要である。そこで、本シンポジウムは、九州沖縄及び東アジアにおける家畜排泄物、食品残渣等のバイオマスのエネルギー化・利用技術及び家畜排泄物の環境保全型利用技術に関する最新の技術を紹介する。

日時：2005 年 10 月 31 日（月）10：00～11 月 1 日（火）16：30

講演会場所：熊本市国際交流会館ホール 〒860-0806 熊本市花畑町 4 番 8 号 TEL 096-359-2020

主催：農業施設学会

共催：NPO 法人 九州バイオマスフォーラム

協賛：九州地域バイオマス関係機関連絡会議、(社)日本有機資源協会(予定)

農業環境工学研究連絡委員会・バイオマスを活用した循環型社会の構築とその総合評価小委員会(予定)

プログラム：

10 月 31 日 講演会 熊本市国際交流会館ホール 開会	10：00 (9：00 受付開始)
国内のバイオマス・エネルギー産業の構築に向けて	10：20～11：20
長崎総合科学大学 人間環境学部 教授 坂井 正康	
砂糖・エタノール複合生産に向けた高収量サトウキビの開発	11：20～11：50
九州沖縄農業研究センター 作物機能開発部 部長 杉本 明	
(昼食)	11：50～13：00
南九州におけるバイオマス利用システムの開発	13：00～13：30
鹿児島大学農学部生産環境学科 教授 守田 和夫	
島しょ型バイオマス循環システムの構築	13：30～14：00
琉球大学 農学部 生産システム工学講座 教授 上野 正実	
中国におけるバイオマス利用の現状と展望	14：00～14：50
中国農業科学院 農業環境・持続的発展研究所 環境工学部長 董 紅敏	
休憩	14：50～15：10
台湾におけるバイオマス利用の現状と展望	15：10～16：00
中興大学 生物産業機電工学系 教授 雷 鵬魁	
総合討論	16：00～16：30
閉会	16：40

11月1日 見学会 熊本市内（熊本市民会館前集合） 9：00 出発  
 バイオマスの多段階ガス化/コ・ジェネレーションシステム「バイオマス2号機」及び成分調整成型堆肥プラント（九州農業研究センター） 9：30～10：10  
 九州沖縄農業研究センター 畜産総合研究チーム チーム長 薬師堂 謙一  
 山鹿市鹿本におけるバイオマス資源循環（山鹿市バイオマスセンター） 10：40～11：30  
 山鹿市鹿本総合支所 産業振興課 課長 柄原 栄一  
 アンモニア回収型堆肥脱臭及び冬期発酵促進システム（山鹿市バイオマスセンター）  
 九州沖縄農業研究センター 畜産総合研究チーム 主任研究官 田中 章浩  
 （昼食） 11：45～12：45  
 阿蘇草原地帯におけるバイオマス利用（阿蘇） 13：45 - 14：30  
 NPO 法人 九州バイオマスフォーラム 理事長 吉田 愛梨  
 熊本空港 15：30 頃  
 熊本市内 16：30 頃

プログラムの変更の可能性もあります。

申込み・問合せ先：国際シンポジウム実行委員会

田中章浩 九州沖縄農業研究センター 畜産飼料作研究部  
 E-mail:a.tanaka@affrc.go.jp  
 TEL:096-242-7760 FAX:096-249-1002

参加申込み：タイトルを「農業施設学会国際シンポジウム申込み」とし 氏名、所属、電話番号、FAX番号、E-mail アドレス、講演会参加の有無、見学会参加の有無、懇親会参加の有無、合計金額を明記し、実行委員会までE-mail もしくはFAX でお申し込み下さい。

参加申込み期限：2005年8月31日（水）厳守

講演会参加費：1,000円（講演要旨代）

見学会参加費：2,000円（昼食付き）学会員及び共催法人以外3,000円

懇親会費：6,000円（10月31日18：00～、ホテル日航熊本）

宿泊情報：

ホテル名	住所	電話	ホームページ
ホテル日航熊本	熊本市上通町 2-1	096-211-2211	<a href="http://www.nikko-kumamoto.co.jp/">http://www.nikko-kumamoto.co.jp/</a>
東横イン熊本辛島公園	熊本市紺屋今町 1-24	096-322-1045	<a href="http://www.toyoko-inn.com/">http://www.toyoko-inn.com/</a>
熊本東急イン	熊本市新市街 7-25	096-322-0109	<a href="http://www.tokyuhotels.co.jp/">http://www.tokyuhotels.co.jp/</a>
チサンホテル熊本	熊本市辛島町 4-39	096-322-3911	<a href="http://www.solarehotels.com/">http://www.solarehotels.com/</a>
熊本交通センターホテル	熊本市桜町 3 番 10 号	096-326-8828	<a href="http://www.kyusanko.co.jp/">http://www.kyusanko.co.jp/</a>
KKR ホテル熊本	熊本市千葉城町 3-31	096-355-0121	<a href="http://www.kkr.or.jp/hotel/">http://www.kkr.or.jp/hotel/</a>

いずれのホテルからも、熊本市国際交流会館へは徒歩 10 分程度です。

(参考資料4)

K B F の活動が紹介された新聞記事

(第3種郵便物認可)

新 報 日 日 新 日 報

## 廃食用油 夜祭りともす

### NPO 発電燃料に再生

白水村両併

廃食用油が再生燃料の電力... 白水村両併が、廃食用油の補助金を活用して今年から開始... 再生燃料の発電機を動かして、照明や音響の電力を賄う試みがあった。

バイオディーゼル燃料... 再生燃料の発電機を動かして、照明や音響の電力を賄う試みがあった。



バイオディーゼル燃料で動かした発電機によってともされたちょうちん—白水村



ばと話していた。二十日の「火の山まつり」(阿蘇町)でも試みられる。

廃食用油からバイオディーゼル燃料を作る事業—白水村

## 草資源 地元も注目

### 流通構想めぐり懇談会 阿蘇市

阿蘇市の野草をたい肥や飼料として利用し、循環型社会の構築を目指す「草資源流通センター構想」の懇談会が十八日、阿蘇市内牧の農村環境改善センターであった。同構想を進めるNPO法人九州バイオオマス・フォーラム(吉田愛梨理事長)が初めて開いた。

草資源流通センター構想は、野草の販売・流通を促進させることで草原環境を維持し、地域経済を活性化させる狙い。阿蘇地方で採草した野草を、たい肥や飼料、ペ

ット用のエサなどの商品。にかえて市場流通させる。将来的はエネルギーとしても活用し、循環型社会の構築を目指す。

この日は行政関係者や学識経験者、地元農家ら十三人が出席。同フォーラムの吉田理事長や中坊真事務局長が構想の趣旨や事業計画案などを説明し、協力を求めた。

出席者からは「ぜひ進めるべきだ」「できるかぎり協力する」などの意見が出た一方で、「急傾斜では、採草に相当な労力とコストがかかる。相応な価格で買ってもらう仕組みをつくるべき」などの指摘もあった。同フォーラムは今後も懇談会を開き、事業内容を詰める方針。(久保田尚之)

(第3種郵便物認可)

## バイオマス燃料、野草たい肥…



BDFで動かしたトラクターを使って、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

# 環境に優しい 畑づくりを

**阿蘇市**

**参加団体の持ち味生かす**

阿蘇市を中心とする環境保全活動に取り組む団体や個人が、阿蘇市阿蘇町の野上集落で、25日、バイオマス燃料、バイオマス燃料と草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

「参加団体の持ち味を生かす」として、省九州地区環境保護業務（二六）が参加した。阿蘇市阿蘇町の野上集落で、25日、バイオマス燃料、バイオマス燃料と草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

バイオマス燃料を、フォーラムの中心に据え、トラクターに搭載したマウントカッターを駆使して、乾燥させた野草約六割を、約一トンのバイオマス燃料として、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

「野草の活用が、多様な植物が育つ草原環境が維持できる」と、阿蘇市阿蘇町の野上集落で、25日、バイオマス燃料、バイオマス燃料と草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

## 草原の保全考えよう

**阿蘇郡白木村吉田の村**（再生可能な生物性資源）

阿蘇郡白木村吉田の村（再生可能な生物性資源）として、草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

「野草の活用が、多様な植物が育つ草原環境が維持できる」と、阿蘇市阿蘇町の野上集落で、25日、バイオマス燃料、バイオマス燃料と草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

## 白木村でシンボ

阿蘇郡白木村吉田の村（再生可能な生物性資源）として、草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

「野草の活用が、多様な植物が育つ草原環境が維持できる」と、阿蘇市阿蘇町の野上集落で、25日、バイオマス燃料、バイオマス燃料と草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

## また、近畿中国四国農

阿蘇郡白木村吉田の村（再生可能な生物性資源）として、草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

「野草の活用が、多様な植物が育つ草原環境が維持できる」と、阿蘇市阿蘇町の野上集落で、25日、バイオマス燃料、バイオマス燃料と草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

## 障害児と地域

阿蘇郡白木村吉田の村（再生可能な生物性資源）として、草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市

「野草の活用が、多様な植物が育つ草原環境が維持できる」と、阿蘇市阿蘇町の野上集落で、25日、バイオマス燃料、バイオマス燃料と草刈り機を駆使して、野草を根かくカットする参加者—阿蘇市



## 役員名簿(平成17年6月現在)

任期:平成16年度~平成18年度(任期2年)

特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラム

役名	氏名	所属・役職
理事	吉田愛梨	一級建築事務所(有)アトリエユニ
理事	木田建次	熊本大学工学部・教授
理事	椛田聖孝	九州東海大学農学部・教授
理事	佐藤誠	熊本大学法学部・教授
理事	山内康二	(財)阿蘇グリーンストック・専務理事
理事	薬師堂謙一	九州沖縄農業研究センター・畜産総合研究チーム長
理事	松下修	NPO法人パーマカルチャーネットワーク九州・代表
理事	梶原健次郎	(株)カジワラ・専務取締役
理事	竹原隆樹	竹原牧場
理事	野上寛史	野の上牧場
理事	中坊真	九州バイオマスフォーラム・事務局長(専従職員)
監事	宮本孝志	阿蘇フォーラム・事務局長

## 監査報告書

特定非営利活動法人

九州バイオマスフォーラム理事会 御中

平成16年4月1日より平成17年3月31日までの平成16年度における特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラムの事業報告書、収支計算書、貸借対照表その他の関係書類の監査を行った結果、適正かつ公正な業務執行および会計処理を行っていることを報告致します。

平成17年6月3日

特定非営利活動法人 九州バイオマスフォーラム

監事

宮幸孝志 